

「身に迫る土砂災害」

岡山県 岡山県立津山中学校 3年 桑守 孝明^{くわもり たかあき}

土砂災害はいつ起こるか分からない。そのことを今年の8月に起こった北陸の豪雨で目の当たりにした。北陸自動車道、国道8号線、北陸本線が発生した土砂災害によって寸断され、実家のある富山に行くのに遠回りしなければならなかった。このように、土砂災害は多くの人々の生活に支障をきたす、いわゆる「迷惑者」なのだということに気付かされた。

私は2018年、当時僕が小学5年生だった時、西日本豪雨を経験した。いつまでも降り続く土砂降りの雨に加え、家の近くの山から漂ってくる生臭いにおいを感じ、高台にある友人の家に避難した。避難した後も、家は無事だろうかと終始不安になった。そして、倉敷市真備町が川の堤防の決壊によって大変なことになっているとニュースで流れ、より一層不安な気持ちになった。この不安な気持ちが落ち着かないまま、次の日を迎えた。雨が小康状態となり、安全だと判断して自宅へ戻った。幸い土砂災害は起こっておらず、家は無事だったが家の近くを流れる水路には枝やゴミが引っかかり、とんでもない水が山から流れてきたと思うと肝が冷えた。電気も通じていてホッとした所で、ニュースを見ると、西日本の各地で土砂災害が起き、多くの尊い命が失われていると聞いてゾッとした。もしあの時、避難せずに土砂災害に巻き込まれていたら、と思うと避難して良かったと思った。

最近、数十年に一度の大雨、数百年に一度と言われるような大雨が毎年のように降っている。今年だってそうだ。東北から北陸にかけて線状降水帯がたて続けに発生し、甚大な被害をもたらした。1時間に100mmを超えるような大雨によって至る所で土砂災害を引き起こし、交通機関や貨物輸送に大きな影響が出た。幸いにも、土砂災害による死者は出なかったが、元通りにするのに多大な時間がかかるような被害をもたらした。このような被害を少しでも軽減するために、次の3つのことが大切だと思った。1つ目は砂防ダムを土石流が発生しやすい場所により多く設置することだ。これを設置することによって、山から流れ出た土砂が住宅地に流入するのを防ぐことができ、人的被害を減らせると思った。2つ目はハザードマップを普及させることだ。ハザードマップは豪雨となった時に危険な場所、避難場所が一度に示されている。よって、いざ災害が起こった時、避難場所が把握できていれば早めに行動することができると思った。1人でも多くの人々が避難経路を知っていれば家族だけでなく周りの人にどう避難すればよいかを知らせることができ、1人でも多くの人を助けることができると思った。3つ目は情報を素早く知り、冷静に行動することだ。地震が発生した後の避難と同じように落ち着いて、故意に走らず、慌てず行動すれば避難する時に怪我をせずに済み、遅れをとることもないだろうと西日本豪雨の時に感じた。

土砂災害は起こってから避難するのではもう手遅れだとニュースや西日本豪雨での経験で気付かされた。この経験から私は土砂災害が発生しそうだと思った時に実践したいことを考えた。まずはハザードマップを今一度素早く確認する。そして周りの住民に避難を呼びかける。最後に非常持出袋とその他必要最小限のものを持って焦らず急いで避難する。この流れで避難すれば、自分だけでなく尊い命を沢山救うことができると思った。そして日頃からいつ起こるか分からない、土砂災害を含めた災害に対して非常持出袋を作っておいたり、家族間や友人間で連絡先を把握しておいたりすればいつ災害が起こってもすぐに避難ができると思った。そしてこれをすぐに実践したいと思う。

土砂災害は人の力では直接止めることはできない。だから土砂災害の起こる前に早め早めの避難が大切だということを知り、西日本豪雨の時に痛感した。そして日頃の災害対策が1人でも多くの命を救えるのだとも思った。いつ身に迫ってくるかわからない土砂災害。そして誰も止められない災害。そう思って生活することが大切なのだろうと思う。